

インドネシアに行ってきました

平成 24 年 10 月 26 日

Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

☆ 11月2日(金)は社員旅行のため、臨時休業とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、何とぞご了承ください。

先月インドネシアに行ってきました。まずインドネシアの印象ですが、将来性は非常にある国だと感じました。インドネシアの人口は2億4千万人、世界でも中国(13億人)、インド(12億人)、アメリカ(3億人)に次いで世界4位の人口です。しかも、20代以下の人口が半分以上ということなので、成長の余地は大いにあります。

人口の半数以上はジャワ島に居住しているため、ジャワ島の人口密度は世界でも有数のものになっているそうです。このためか、2社行った工場見学でも、人が集まらないという話しは一切ありませんでした。

通貨単位はルピア。両替をすると1万円が120万ルピアくらいになります。つまり単位としては120分の1ということになりますが、だいたい100分の1だと思えばよいわけです。そのため、現地での買い物をするときは、値札の桁を2桁消して見当をつけていました。

物価水準・賃金水準など

物価水準は、大体5分の1から7分の1程度です。現地の方は、昼食も日本円で100円程度で済みます人が多いとの話しや、ミネラルウォーターの値段が1,800ルピア(日本円で15円)なので、その程度だと思います。

賃金は地域で決められている最低賃金が適用されます。しかし、その賃金は慣習上「手取り」なので、社会保険・税金などを上乗せしていくと日

本円で2万円程度になります。

労働者の気質

労働者の気質は「まじめでこつこつ仕事をする」ということです。ですから、日本人の経営者の方からは「日本人に合っている」、「とんでもない間違いが発生することがあるが、いい物を作ることが出来る」など、肯定的な意見が多くありました。反面、「欲がない」という面もあります。そのため一生懸命働いて、いろいろな知識を身につけ上の職位に上がっていかうという意識が薄いため、管理者・技術者の人材が不足していることが問題となっています。

大きな貧富の差

貧富の差は予想以上に大きいようです。インドネシアは華僑に経済を握られています。人口の3%の華僑が国民の富の7割を所有しているという話しを聞きました。インドネシア一番のショッピングセンターでは、こうした富裕層向けに世界的なブランド品が国際的な標準価格で売られていますし、日本の「山頭火」というラーメン屋もあり、日本と同じ価格で提供されていました。

イスラム教国

インドネシアでは人口の90%がイスラム教徒だといわれています。しかし、インドネシアのイスラムはそれほど厳しくないようです。各工場には必ずモスクがあり、そこで従業員は交代で5分、10分程度のお祈りを捧げるのですが、ラインを止めるほどではありません。

イスラム教徒であっても酒を飲むこともあり、

それは「仕事のために飲んでいる」からと理由をつけたり、クリスマスの時期にはサンタクロースも出るなど、それほど厳格ではないところが日系企業にとってはありがたいところです。

激しい交通渋滞

インドネシアだけでなく、アジアの国はどこに行っても車が渋滞しています。日本や欧米諸国は、車社会（モータリゼーション）の波が来る前に、鉄道の時代がありました。このため、その時期に鉄道網が整備され、車社会になっても、多少の渋滞があるものの、とんでもない渋滞が毎日起こるようなことはありません。

しかし、アジア諸国は鉄道網を整備する前に、車社会になってしまったので、鉄道による人間の大量輸送が出来ず、激しい渋滞を生じる結果になっています。首都ジャカルタでも、まだ地下鉄の着工もされていません。こうしてみると、歴史をたどって発展して来た日本をはじめ、欧米諸国の優位さを感じます。

遅れているインフラ

インフラは遅れています。鉄道網もそうですが、電気の供給がまだ十分ではありません。そのため少し前に建てられた住宅では、電気の容量が10KW程度(日本でいえば10アンペア)しか無く、必需品のテレビと冷蔵庫を入れてしまうと、電気的な容量が足らず、他の家電製品が入る余裕がないということも生じているようです。

それに加え、水資源は豊富であるのに、有効活用されていません。水力発電所も多くありません。

足りない工業団地

労働人口的には恵まれたインドネシアですが、工業団地が足りません。既にある工業団地は予約でいっぱいだそうです。インドネシアでは、工場は工業団地に建てなければならないそうなので、新規参入者にはかなり深刻な問題です。

前述のように、インドネシアではインフラが不足しているので、工業団地では独自に受電設備、下水道設備を設けているそうです。

インドネシア進出のリスク

ここまではインドネシアの良いところを書きましたが、リスクもあります。一番はデモを決行することで、労働者・一般市民の要求が通ってしまうことです。

インドネシアでは賃上げについては各地域ごとに労働組合の代表と地域政府と企業代表者の三者で協議して決めることになっています。ところが、昨年日系企業が多く進出しているブカシ県で30%もの大幅な賃上げを、企業側の代表が欠席のなか、労働組合側と住民の支持を得たい地域政府代表者が結託して決めてしまいました。もちろんこうした決定は無効であるため、企業側が無効の訴えを起こし、裁判所もそれを認めました。

しかし、この裁判所の決定に対して労働組合が決起し、デモ隊が工業団地を取り巻き工場の操業をストップさせ、高速道を封鎖して交通も麻痺するなどの騒ぎに発展し、世界中に報道されました。この事態を收拾させるため、政府が何をしたかという、企業側にこの賃上げを飲めと要求したのです。結局、企業側はこれを認めるしかありませんでしたが、これがデモを行えば、何でも要求が通るといような悪い風潮を蔓延させたそうです。

しかし、デモに参加している人は必ずしも参加したくてしているわけではないそうです。ただ、友人からデモに誘われると断り切れないインドネシア人の性格が、そうさせていると聞きました。ただ、一旦大人数にふくれあがってしまうと、そうしたおとなしいインドネシア人も、貧富の差などの日頃の不満を爆発させることもあるので、そうしたこともリスクの一つであると思います。

以上